

彙報

研究部門—東アジアに於ける密教の流伝

第二回 バングラデシュ密教美術調査概要

バングラデシュはインド仏教の終焉の地で、とくに密教徒にとっては大変ゆかりのある地であります。密教はインド仏教の最後期に現れ、初期と中期の密教は陸路と海路を通じて中国に伝わり、わが国にも伝えられました。西暦八世紀から十二世紀にかけてベンガル、ビハールを中心に栄えたパーラ朝時代はとくに後期密教が栄え、近隣のチベットやネパール、さらにインドネシアやシヤンマーをはじめとする東南アジアに大きな影響を与えました。現在のところパーラ朝時代の密教とわが国の密教との関係は定かではありませんが、パーラ朝時代の密教の研究はインド密教史や、東南アジア、さらに東アジアにおける密教の流伝を解明する上で重要なキーポイントになっています。

密教文化研究所では、平成三年度より密教に関する研究事業の一環として、このバングラデシュの仏教遺品・遺跡の調査を実施することになり、前号で報告しましたように、第一回の調査には松長有慶同研究所所長と乾仁志同研究所講師が派遣され、平成三年四月三日から十日にかけてダッカ博物館、ヴァレンドドラ博物館、ソーマプラ寺院にて現地調査をおこないました。

これを受けた第二回の調査には、東智學高野山大学教授、藤田光寛同大学助教、乾仁志同研究所講師、一松長恵史同研究所研究員が派遣されることになり、これに大西秀城同大学院生を加えた五名が、平成三年十二月二十一日から翌同四年一月七日にかけて、前回の調査地を含めた以下の箇所にて現地調査を行い、仏教遺品と遺跡を中心に写真撮影を実施しました。今回の主な調査箇所と

調査日程は以下の通りです。

なお前回および今回行った、過去二回の現地調査による研究成果については、本誌上に各先生方によって報告されていますので、詳しくはそれらに譲りたいと思います。

【調査箇所】

一、仏教遺跡に関して

- 1 マイナマティ (Mainamati) 遺跡群…ロッキン (Comilla)
サルバンヴィハール (Salban Vihara)
イタコラムラ (Itakhola Mura)
ルプバンムラ (Rupban Mura)
マイナマティパレス (Maina m ati Palace)
- 2 マハスタン (Mahasthan) 遺跡群…ボグーラ (Bogra) の北方
ヴァスヴィハール (Vas Vihara-Bhasu V.)
- 3 パハルプル (Paharpur) 遺跡…マハスタンの北西
ソーマプラ (Somapura) 寺院 (=Dharmapala Vihara)
- 一、仏教・ヒンドウ教遺品に関して
- 1 バングラデシュ国立博物館 (Bangladesh National Museum, Dhaka)
- 2 マナマティ博物館 (Mainamati Museum)
- 3 サンボディ博物館 (Sambodhi Museum, Kanaka Stupa Vihara, Comilla)
- 4 ヴァレンドドラ博物館 (Varendra Research Museum, Rajshahi)
- 5 パハルプル考古学博物館 (Paharpur Archaeological Museum)
- 6 マハスタン博物館 (Mahasthan Museum)
- 一、仏教写本に関して
- 1 ヴァレンドドラ博物館付属図書館 (Varendra Research Museum Library)
- 2 ダッカ大学付属図書館 (Dhaka University Library)
- 一、その他

- 1 カマラプル仏教協会 (Kamalapur Buddhist Association=
Dharmarajika Buddhist Monastery, Atisa Dipankar Sarak)
- 2 バングラデシュ考古局 (Department of Archeology and Museum)
- 3 アティーシャ生誕地 (Vajrayogini, Vikrampur)

【調査日程】

- 十二月二十一日 大阪発、バンコク着。
- 二十二日 バンコク発、ダッカ着。
ダッカ博物館にて調査、仏教・ヒンドウー教遺品の写真撮影を行う。
- 二十三日 撮影を行う。
- 二十四日 ダッカのカマラプル仏教協会を訪問し、アティーシャの遺灰を拝す。
車にてダッカからコミラに向う。
- 二十五日 マイナマテイ遺跡群の一部を視察。
マイナマテイ博物館にて調査、仏教・ヒンドウー教遺品の写真撮影を行う。
- 二十六日 カナカストウーパ仏教寺院を訪問す。
サルバンヴィハーラを視察し遺跡の写真撮影を行う。
- 二十七日 ルパンムラ、イタコラムラにて遺跡の写真撮影を行う。
外人墓地への参拝。
マイナマテイパレスの跡地、およびヒンドウー教寺院の視察。
- 二十八日 車にてコミラからダッカに向う。
- 二十九日 ダッカ発、ラジシャヒ着。
ヴァレンドラ博物館にて仏教・ヒンドウー教遺品の写真撮影を行う。
- 三十日 昨日に引き続きヴァレンドラ博物館にて写真撮影を行

う。その後、付属図書館を見学し、サンスクリット写本の閲覧を願ったが、管理担当者不在のため仏教写本の所在は不明であった。
ラジシャヒ在住の海外青年協力隊員の方々と歓談する。
車にてラジシャヒからボーグラに向う。

三十一日 マハスタン博物館を視察。ただし遺品の写真撮影できず。
ヴァスヴィハーラを視察。

一月 一日 パハルプル考古学博物館にて仏教・ヒンドウー教遺品の写真撮影を行う。

二日 ソーマブラ寺にて遺跡の写真撮影を行う。
ボーグラ発、ラジシャヒ着。

三日 ラジシャヒ発、ダッカ着。
ヴァジラヨーギニー村のアティーシャ生誕地を視察する。

四日 バングラデシュ考古局を訪問する。
ダッカ大学図書館を訪問する。ただしサンスクリットの

五日 仏教写本の所在は不明であった。
ダッカ発、バンコク着。

六日 ルパンムラ、イタコラムラにて遺跡の写真撮影を行う。
バンコク市内見学。

七日 バンコク発、大阪着。

弘法大師著作研究部門

・平成三年七月、待ち望まれた『定本弘法大師全集』第一巻を刊行いたしました。当巻には、『御請来目録』一巻、『真言宗所学経律論目録』(略称『三学

録じ)一卷、『秘密漫荼羅教付法伝』(略称『広付法伝』)二卷、『真言付法伝』(略称『略付法伝』)一卷の四作品と、参考資料として、『秘密曼荼羅大阿闍梨耶付法伝』(略称『大阿闍梨耶付法伝』)一卷を収載しています。詳細な注と解説は、今後の原典研究の基礎資料として不可欠のものと思われまます。
 ・平成三年度は、石山寺・醍醐寺・東寺・高山寺におきまして、聖教調査を行ないました。調査にあたり、御便宜・御協力いただきました石山寺・醍醐寺・東寺・高山寺の関係各位に、あらためて甚深の謝意を申し上げます。

平成三年度調査典籍

一 石山寺(8・4~5、12・13~15) ※最下段は函・典籍番号	一卷	平安初期写 重書類	13
不空三蔵表制集 卷第三	一卷	院政期写 校倉藏2	9
受菩提心戒儀	一卷	平安中期写	7・9
三摩耶戒	一卷	長治3年写	7・12
三昧耶戒作法	一卷	大治3年写	7・13
三昧耶戒作法	一卷	平安中期写	26・69
戒禮 三昧耶戒	一帖	院政期写 深密藏50	6
金剛界次第 卷上 御作	二帖	嘉元元年写	52・34
高野山記 上・下	一帖	保延元年写	52・35
高野大師家風	一帖	院政期写	53・2
理趣経開題 複五本	一帖	仁平元年写	53・3
法花開題	一帖	院政期写	53・5
法華開題	一帖	仁安2年写	54・36
金剛界私記 卷下(延喜一七年奥書)	一帖	承平8年写	58・8
北斗七星護摩儀軌復胎藏根本極秘契	一帖	承安2年写	65・1
十八道儀軌	一帖	久寿2年写	67・1
梵字悉曇字母積義	一帖	安永4年刊	68・8
摩多休文 弘法大師真蹟	一帖	〃	〃

孔雀経開題	一帖	保元3年写	89・61
法花開題	一帖	仁平元年写	105・1
遺告	一帖	康平6年写	111・29

不空三蔵表制集 卷第三	一卷	平安初期写 重書類	13
即身成仏義	一冊	天文10年写 深密藏11	1
宗叡・円行・円仁・円珍印信抄(印信六帖内)	一卷	文永元年写	25・9
大師入定記	一帖	院政期写	50・4
雑筆集	一冊	安永3年写	52・7
金剛頂瑜伽発阿耨多羅三藐三菩提心論	一卷	平安中期写	58・1
胎藏秘密略大軌 末	一帖	平安中期写	69・1
東寺諸法要	一帖	院政期写	94・1
吽字義釈	一帖	応保2年写	111・30
秘密曼荼羅十住心論疏	一帖	院政期写	111・60
式部僧都抄 本・末	二冊	寛政2年写	113・6

二 醍醐寺(8・19~20) ※最下段は函・典籍番号	二帖	江戸期刊	229・11
秘蔵記 本・末	一冊	文政5年刊	230・16
發揮捨遺編	一冊	寛文13年写	245・28
悉曇字母積	一枚	建永2年写	247・8
大師真筆写梵字	一冊	文政8年写	264・48
弘法大師手本十八道念誦次第	一帖	院政期写	299・20
三教指帰 卷中	一卷	嘉曆3年写	341・3
護摩法其他作法次第	一卷	嘉禄3年写	349・3
請雨経法記	一帖	正安3年写	353・8
秘密家宗躰要	一帖	〃	〃

武内孝善・甲田博士・後藤雅則	一冊	寛政2年写	113・6
----------------	----	-------	-------

即身成仏義	一冊	江戸期写	358	16	
鳥羽宝蔵事抜書	一紙	室町期写	363	36	
金剛智從竜智受(両部)否事	一帖	永正12年写	367	32	
竜猛開塔密教流传事	一帖	永正12年写	367	33	
宝珠勘文	一帖	鎌倉期写	368	143	
薄次第 三親王灌頂時儀式	一紙	鎌倉期写	368	221	
仁王経開題	一帖	慶長15年刊	371	4	
最勝王経開題	一帖	慶長15年刊	371	5	
大日経開題	一帖	慶長15年刊	371	6	
金剛頂経開題	一帖	慶長15年刊	371	7	
梵網経開題	一帖	慶長15年刊	371	8	
秘蔵宝鑰	一帖	天永3年写	371	11	
秘密莊嚴灌頂一異義	一冊	室町期写	383	14	
(武内孝善・山陰加春夫・庄司知之・跡部正紀・高木真也)					
三 東寺(観智院金剛藏聖教、8・27(29)※最下段は函・典籍番号)	三帖	平安中期写	27	25	
大辨正廣智三蔵表制集 卷一(六)	三帖	鎌倉中期写	40	9	
秘蔵宝鑰	一帖	建暦年頃写	47	12	
辨頭密二教論 卷下	三帖		69	5	
阿字義	一帖	宝治2年写	69	6	
宝鑰 中	一卷		75	13	
惠果碑文	一冊	応永15年写	109	3	
大日経開題	一冊	応永11年写	109	5	
金剛頂経開題	一帖	大治3年写	131	19	
念誦結護法	一卷		131	76	
不空三蔵出家受戒年曆事	一帖	院政期写	139	3	
性靈集 第一					
僧申文	一卷		146	1	
秘蔵宝鑰(臬宝所持本)	三帖	正応3年刊	162	19	
心目 上・下 合作法集二種	二帖		176	3	
善無畏三蔵懺悔受菩提心戒修行大乘禪師要訣	一帖		182	43	
大日経疏 卷四(十)	七帖		189	4	
梵字悉曇字母并釈義	一帖	正平7年刊	205	12	
鵝珠抄	一帖		233	7	
心経秘鍵	一冊		234	103	
叶字義	一冊		234	106	
声字実相義	一帖	永享5年写	245	1	
秘蔵宝鑰 卷上	一卷	院政期写	248	4	
辨頭密二教論 卷下	一帖	保延3年写	261	1	
護摩口決 御作	一帖	承安3年写	266	6	
天台血脉	一卷		290	1	
梵網菩薩心地品開題	一帖	永享6年写	291	5	
十二真言王儀軌	一帖	南北朝期写	291	9	
般若心経開題	一帖	南北朝期写	291	30	
三親王灌頂時儀式畫作法	一卷	平安中期写	301	25	
声字実相義抄出	一冊	元亨3年写	又別	14	5
無畏三蔵禅要	一帖		17	10	
無畏三蔵禅要	一帖		30	7	
即身成仏義	一帖	寛永6年写	32	10	
五部陀羅尼宗秘論	一帖	鎌倉初期写	32	51	
無畏三蔵禅要	一帖		50	24	
三教指帰 卷上・中	二帖	正応2年刊	特1	5	
真言付法血脉 仁和寺	一卷		特4	10	
(武内孝善・庄司知之・甲田博士・跡部正紀・高木真也)					

四 高山寺(1・7・8) ※最下段は函・典籍番号	
代宗朝贈司空大辨正廣智三藏和上表制集	六帖 院政期写 第一部 239
五部陀羅尼宗秘論	一帖 鎌倉時代写 第四部 126・20
三昧耶戒序	一帖 院政期写 " 162・27
代宗朝贈司空大辨正廣智三藏和上表制集	五卷 鎌倉中期写 " 176・1
不空三藏表制集 卷第一	一卷 南北朝期写 " 180・34
秘密漫荼羅十住心論	十帖 院政期写 " 189・3
	(武内孝善・山陰加春夫・甲田博史)

平成三年度寄贈図書及び交換寄贈雑誌目録

以下の寄贈図書及び交換誌は平成三年四月より平成四年三月末までの間に登録したものです。当研究所の図書充実のために関係諸機関ならびに関係諸氏には今後とも御協力と御支援をお願い申し上げます。

寄贈図書

- 『石山寺の研究』(深密藏聖教篇下) 石山寺文化財総合調査団編 (石山寺文化財総合調査団 平成4年2月) 発行所殿
- 『大正文庫目録』 高野山大学図書館編 (同図書館 平成3年12月) 発行所殿
- 『ケルト 伝統と民俗の想像力』(中央大学人文科学研究所研究叢書8) 中央大学人文科学研究所編 (中央大学出版部 平成3年3月) 発行所殿
- 『皇学館大学神道研究所雑誌目録』 皇学館大学神道研究所編 (同研究所 平成3年8月) 発行所殿

- 『高校生の主張13』 毎日新聞社編 (毎日新聞社 平成3年1月) 霊友会殿
- 『高山寺いしぶみ』 高山寺典籍文書総合調査団編 (高山寺 平成3年6月) 発行所殿
- 『弘法大師誕生地の研究』 乾千太郎著 (総本山善通寺 平成3年5月) 発行所殿
- 『寒川町史調査報告書1』(高野山高室院資料(1)) 寒川町史編集委員会編 (寒川町 平成4年3月) 発行所殿
- 『浄土三部経』(仏説無量寿経) 研究会 武蔵野女子大学仏教文化研究所編 (同研究所 平成3年3月) 発行所殿
- 『住吉大社所蔵 住吉大神宮祝詞』(神道資料叢書3) 福井秋彦著 (皇学館大学神道研究所 平成3年3月) 発行所殿
- 『世界の中の日本III』(国際シンポジウム第三集) 国際日本文化研究センター編 (国際日本文化研究センター 平成3年3月) 発行所殿
- 『蔵書目録』(宗教) 大倉山精神文化研究所編 (同研究所 平成3年3月) 発行所殿
- 『伝道学概論』 丸川仁夫著 (天理大学出版部 平成3年3月) 発行所殿
- 『密教マンダラ展』 総本山善通寺編 (総本山善通寺 平成2年9月) 発行所殿
- 『密教マンダラ展』 概況報告書 総本山善通寺密教マンダラ展実行委員会編 (総本山善通寺 平成3年5月) 発行所殿
- 『密教眼想』(阿字観のすずめ) 山崎泰廣著 (善通寺教学振興会 平成3年6月) 以上発行所殿
- 『明治期』(宗報) にみる宗門教化理念 曹洞宗教化研修所編 (駒沢大学内同研修所 平成3年3月) 発行所殿
- 『霊友会史(一)』(上巻) 霊友会史編集委員会編 (霊友会 平成4年1月) 発行所殿
- Akira Yuyama, *A Select Bibliography on the Sanskrit Language for the use of Students in Sanskrit, Bibliographia Indica et Buddhica*

Pamphlet, No. 1.

Tokyo: The International Institute for Buddhist Studies, 1983.

Akira Yuyama, *Kachōgaku-Tataka, Eine Erzählung von der Schickelrote und dem Kranzwinde*, Studia Philologica Buddhica Occasional Paper Series V.

Tokyo: The International Institute for Buddhist Studies, 1983.

Lambert Schmithausen, *The Problem of the Sentience of Plants in Earliest Buddhism*, Studia Philologica Buddhica Monograph Series VI.

Tokyo: The International Institute for Buddhist Studies, 1991.

Lambert Schmithausen, *Buddhism and Nature, the Lecture delivered on the Occasion of the EXPO 1990 an Enlarged Version with Notes*, Studia Philologica Buddhica Occasional Paper Series VII.

Tokyo: The International Institute for Buddhist Studies, 1991.

『国際シンポジウム「仏教と自然」国際仏教学研究所編

(同研究所 平成3年12月) 以上発行所殿

交換寄贈雑誌

1 アジア・アフリカ文化研究所研究年報(第25号)

東洋大学アジア・アフリカ文化研究所編 (同研究所 平成3年3月)

2 アジア研究所紀要(第17号)

アジア研究所紀要(第18号) 亜細亜大学アジア研究所編 (同研究所 平成3年2月)

3 叡山学院研究紀要(第14号) 叡山学院編

4 大倉山論集(第28輯) (同学院 平成3年11月)

大倉山論集(第29輯)

大倉山論集(第30輯) 大倉精神文化研究所編 (同研究所 平成3年12月)

5 大谷大学真宗総合研究所紀要(第8号) 大谷大学真宗総合研究所編

(同研究所 平成3年2月)

6 紀州経済史文化史研究所紀要(第11号)

和歌山大学紀州経済史文化史研究所編 (同研究所 平成3年8月)

7 教化研修(第34号) 駒沢大学曹洞宗教化研修所編

8 紀要(第16号) 嵯峨美術短期大学編 (同研究所 平成3年3月)

9 研究紀要(第28集) 光華女子大学編

10 研究紀要(第4号) 京都女子大学宗教文化研究所編 (同大学 平成2年12月)

11 高野山麓 天野の文化と民俗(創刊号) 天野歴史文化保存会編

(同研究所 平成3年3月)

12 国士館大学文学部人文学会紀要(第23号)

国士館大学文学部人文学会紀要(第24号) (同保存会 平成3年6月)

13 国士館大学文学部人文学会紀要(第23号)

14 国士館大学宗教文化研究所紀要(第9号) 国士館大学宗教文化研究所編 (同研究所 平成3年2月)

15 国士館大学宗教文化研究所紀要(第9号) 国士館大学宗教文化研究所編 (同研究所 平成3年2月)

16 国際日本文学研究集會會議録(第14回) 国文学研究資料館編

17 寒川町史研究(第4号) 寒川町史編集委員会編 (同委員会 平成3年3月)

18 正眼短期大学研究紀要(第2号) 正眼短期大学編 (同短期大学 平成2年10月)

19 信愛紀要(第31号) 和歌山県信愛女子短期大学学術研究会編

20 人文研紀要(第12号) (同研究会 平成4年3月)

21 人文研紀要(第13号) 中央大学人文科学研究所編 (平成3年3月)

22 人文研紀要(第13号) 中央大学人文科学研究所編 (同研究所 平成3年8月)

- 19 西山学報〈第39号〉/西山短期大学編 (同短期大学 平成3年3月)
- 20 禪研究所紀要〈第18・19号〉/愛知学院禪研究所編 (同研究所 平成3年3月)
- 21 筑紫女学園短期大学紀要〈第26号〉 (平成3年1月)
- 筑紫女学園短期大学紀要〈第27号〉/筑紫女学園短期大学紀要編集委員会編 (同短期大学 平成4年1月)
- 22 筑紫女学園大学紀要〈第3号〉 (同大学 平成3年1月)
- 筑紫女学園大学紀要〈第4号〉/筑紫女学園大学紀要編集委員会編 (同大学 平成4年1月)
- 23 中央学術研究所紀要〈第19号〉 (平成2年12月)
- 中央学術研究所紀要〈第20号〉/中央学術研究所編 (同研究所 平成3年12月)
- 24 中央大学人文科学研究年報〈第12号〉/中央大学人文科学研究所編 (同研究所 平成3年3月)
- 25 天台学報〈第33号〉/天台学会編 (同学会 平成3年10月)
- 26 東京大学史料編纂所紀要〈第1号〉/東京大学史料編纂所編 (同史料編纂所 平成3年3月)
- 27 東京大学史料編纂所報〈第25号〉/東京大学史料編纂所編 (同史料編纂所 平成2年12月)
- 28 東京立正女子短期大学紀要〈第18・19号〉 (同短期大学 平成3年2月)
- 東京立正女子短期大学紀要編集委員会編 (同短期大学 平成3年2月)
- 29 東洋学術研究〈第31卷第1号(通巻128号)〉/東洋哲学研究所編 (同研究所 平成4年2月)
- 30 東洋学論叢/東洋大学文学部紀要第44集/東洋大学文学部編 (同文学部 平成3年3月)
- 31 成田山仏教研究所紀要〈第14号〉/成田山仏教研究所編 (成田山新勝寺 平成3年3月)
- 32 日文研〈第4号〉 (平成2年12月)
- 日文研〈第5号〉/国際日本文化研究センター編 (同センター 平成3年7月)
- 33 日本研究〈第4集〉 (平成3年10月)
- 日本研究〈第5集〉/国際日本文化研究センター編 (同センター 平成3年10月)
- 34 日本文化研究所報告〈第27集〉/東北大学文学部付属日本文化研究施設編 (同センター 平成3年10月)
- 35 福井県立短期大学研究紀要〈第16号〉/福井県立短期大学研究紀要編集委員会編 (同短期大学 平成3年2月)
- 36 仏教学研究〈第47号〉/龍谷大学仏教学会編 (同学会 平成3年3月)
- 37 仏教学報〈第27輯〉/東国大学校仏教文化研究院編 (同研究院 平成2年11月)
- 38 仏教学会報〈第16号〉/高野山大学仏教学研究室編 (同学会 平成3年10月)
- 39 仏教研究〈第20号〉/国際仏教徒協会編 (同協会 平成3年3月)
- 40 仏教大学研究紀要〈通巻第75号〉/仏教大学学会編 (同学会 平成3年3月)
- 41 仏教大学院研究紀要〈第19号〉/仏教大学学会編 (同学会 平成3年3月)
- 42 仏教美術研究上野記念財団助成研究会報告書 (同研究会 平成3年7月)
- 〈第21冊 院政期の仏師と仏像〉 (同研究会 平成3年11月)
- 43 仏教文化〈第24巻通巻27号〉 (平成4年1月)
- 仏教文化〈第25巻通巻28号〉/東京大学仏教青年会編 (同青年会 平成2年12月)
- 44 仏教文化研究所紀要〈第29集〉/龍谷大学仏教文化研究所編 (同研究所 平成2年12月)
- 45 仏教文化研究所紀要〈第13号〉/同朋学園仏教文化研究所編 (同研究所 平成2年12月)

- 46 文化学年報△第39輯▽同志社大学文化学会編 (同研究所) 平成3年5月
- 47 文研会紀要△第2号▽愛知学院大学大学院文研会編 (同学会) 平成2年3月
- 48 平和と宗教△No.10▽庭野平和財団平和研究会編 (同研究会) 平成3年10月
- 49 北陸宗教文化△創刊号▽ (平成元年3月)
- 北陸宗教文化△第2号▽ (平成2年3月)
- 北陸宗教文化△第3号▽北陸宗教文化研究会編 (同研究会) 平成3年3月
- 50 密教文化△第174号▽ (平成3年3月)
- 密教文化△第175号▽高野山大学密教研究会編 (同研究会) 平成3年9月
- 51 民具マンスリー△第23巻9号▽ (平成2年12月)
- 民具マンスリー△第23巻10号▽ (平成3年1月)
- 民具マンスリー△第23巻11号▽ (平成3年2月)
- 民具マンスリー△第23巻12号▽ (平成3年3月)
- 民具マンスリー△第24巻1号▽ (平成3年4月)
- 民具マンスリー△第24巻2号▽ (平成3年5月)
- 民具マンスリー△第24巻3号▽ (平成3年6月)
- 民具マンスリー△第24巻4号▽ (平成3年7月)
- 民具マンスリー△第24巻5号▽ (平成3年8月)
- 民具マンスリー△第24巻6号▽ (平成3年9月)
- 民具マンスリー△第24巻7号▽ (平成3年10月)
- 民具マンスリー△第24巻8号▽ (平成3年11月)
- 民具マンスリー△第24巻9号▽ (平成3年12月)
- 民具マンスリー△第24巻10号▽ (平成4年1月)
- 民具マンスリー△第24巻11号▽ (平成4年2月)
- 民具マンスリー△第24巻12号▽神奈川大学日本常民文化研究所編 (同研究所) 平成4年3月
- 52 武蔵野女子大学仏教文化研究所紀要△No.9▽ (同研究所) 平成3年3月
- 武蔵野女子大学仏教文化研究所編 (同研究所) 平成2年12月
- 53 立正大学人文科学研究所年報△別冊第7号▽ (同研究所) 平成3年3月
- 立正大学人文科学研究所年報△第28号▽立正大学人文科学研究所編 (同研究所) 平成3年6月
- 54 龍谷史壇△第97号▽ (平成3年6月)
- 龍谷史壇△第98号▽龍谷大学史学会編 (同史学会) 平成3年12月
- 55 龍谷大学論集△第437▽龍谷学会編 (同学会) 平成3年3月
- 56 歴史と民俗△7▽ (平成3年7月)
- 歴史と民俗△8▽神奈川大学日本常民文化研究所編 (同研究所) 平成3年11月
- 57 *Japan Review*, No. 2 国際日本文化研究センター編 (同センター) 平成3年

密教文化研究所構成員名簿

所長(兼)	松長 有慶 (文学部教授)
教授	村上 保壽
”(兼)	和多 秀乘 (文学部教授)
助教授(兼)	武内 孝善 (文学部助教授)
”(兼)	山陰加春夫 (文学部助教授)
講師	乾 仁志
研究員(兼)	東 智學 (文学部教授)
”(兼)	蜜波羅鳳州 (文学部教授)
”(兼)	藤田 光寛 (文学部助教授)
”	齋藤和佳子 (ミラノカトリック大学留学)
”	土生川正道 (学監)
事務局長(兼)	村上 保壽
事務局長補佐(兼)	甲田 博史
事務職員	後藤 雅則
”	
☆新任	
講師(兼)	中村 正文 (文学部講師) 平成四年四月一日付
研究員(兼)	越智 淳仁 (文学部教授) 平成四年十月一日付
”(兼)	森 寛勝 (文学部特任教授) 平成四年四月一日付
”(兼)	山階 清隆 (文学部特任講師) 平成四年四月一日付

”(兼)	添田 隆昭 (文学部非常勤講師) 平成四年四月一日付
”	下松 徹 (奈良国立博物館研修員) 平成四年四月一日付
事務職員	堀畑 朝 平成四年四月一日付
”	跡部 正紀 平成四年四月一日付
”	杉本 究 (非常勤) 平成四年四月一日付
”	田輪美佐代 (非常勤) 平成四年十月一日付
*依願解嘱	
研究員	松長 恵史 平成四年三月三十一日付
”	デイヴィド・ガーディナー 平成四年八月三十一日付
*退職	
事務職員	渋谷 良範 平成三年七月十五日付
”	高木菜穂美 (非常勤) 平成四年九月三十日付
*異動	
事務職員	高木 真也 (図書館職員) 平成四年四月一日付
	以上 平成四年十二月現在

密教文化研究所規定

第一章 名称及び所属

第一条 この研究所は密教文化研究所と名づける。
 第二条 この研究所は学校教育法第六十一条及び高野山大学学則第一七条第二項に基づき高野山大学内に設ける。

第二章 目的及び事業

第三条 この研究所は真言密教の濫興を究め、これを顕揚すると共に現在の社会に貢献するを以て目的とする。
 第四条 前条の目的を達成するための次の事業を行う。

- ① 研究の指導及び助成
- ② 研究及び研究成果の報告
- ③ 研究会及び講演会の開催
- ④ その他この研究所の目的達成に必要な事項

第三章 組織

第五条 この研究所の構成員を次のとおりとする。

- ① 所長 一名
- ② 副所長 一名
- ③ 教授 若干名
- ④ 助教授 若干名
- ⑤ 講師 若干名
- ⑥ 助手 若干名
- ⑦ 研究員 若干名
- ⑧ 事務局長 一名
- ⑨ 事務職員 若干名

第六条 所長及び副所長は学長が選任し、理事会の承認を経て理事長がこれを委嘱する。

2 教授・助教授・講師・助手（以下教員）の新任及び昇補は、教員の新任及び昇補に関する規程に従い、学長の具申により理事長が承認の上これを任命する。

3 前項の規程は、別にこれを定める。

4 研究員は学長が所長と合議の上これを委嘱する。

5 事務局長は高野山大学学監がこれにあたる。

第七条 所長・副所長・助手の任期は三年とし、研究員の任期は一年とする。但し重任を妨げない。

第八条

所長はこの研究所を総攬しこれを代表する。副所長は所長を輔佐し所長事故ある時はその職務を代理する。教員は各年度の研究課題に従い所長の命を受けて研究に従事する。

第九条

研究員は所長の依頼を受けて、特定の研究に従事する。事務局長はこの研究所の会計・庶務等の事務を掌理する。事務職員はこの研究所の事務に従事する。

第四章 教授会

第十条

この研究所に教授会を置く。

第十一条

教授会に関する規程は、別にこれを定める。

第五章 顧問及び賛助員

第十二条

この研究所に顧問及び賛助員を置く。

① 顧問は所長が学長とはかり理事長の承認を経てこれを委嘱する。
 ② 賛助員は所長が学長とはかりこの研究所の事業に賛助した者の中から理事長の承認を経てこれを委嘱する。

第六章 会計

第十三条

この研究所の経費は学校法人高野山学園予算・研究助成金及び寄附金をもってこれに充てる。

第十四条

この研究所の会計年度は、四月一日に始まり翌年三月三十一日に終わる。

第七章 規定の改廃

第十五条

この規定の改廃は、学長が所長とはかり理事長の承認を経て行う。

附 則

一 この規定は昭和三十三年四月一日より施行する。

一 この規定は昭和五十一年四月一日より施行する。

一 この規定は昭和五十九年四月一日より施行する。

一 この規定は平成二年二月十六日改定、同日より施行する。

一 この規定は平成三年二月十八日改定、同日より施行する。

一 この規定は平成四年四月一日改定、同日より施行する。

執筆者紹介（掲載順）

村上 保壽

密教文化研究所教授

武内 孝善

密教文化研究所助教授

（文学部助教授）

松長 恵史

清風学園教諭
（元密教文化研究所研究員）

乾 仁志

密教文化研究所講師

藤田 光寛

密教文化研究所研究員

（文学部助教授）

松長 有慶

密教文化研究所長

（文学部教授）

編集後記

。当研究所の紀要第六号をお届けいたします。今回の紀要には、松長有慶・村上保壽・藤田光寛・武内孝善・乾仁志・松長恵史の諸先生の論文を掲載しました。

。当研究所による「高野山大学バングラデシユ密教學術調査」の第一回現地調査は平成三年四月上旬に実施され、つづいて第二回現地調査が、彙報にあるように、同年十二月下旬より翌平成四年一月上旬にかけて行われました。本号掲載の松長有慶・藤田光寛・乾仁志・松長恵史の諸先生による論文四編は、これら二度にわたるバングラデシユでの現地調査に基づいて作成された學術報告です。なお第三回現地調査が平成四年十二月に実施される予定です。

。弘法大師著作研究部門において、平成四年度は東寺・仁和寺・高野山靈宝館・宝亀院・正智院・名古屋大須文庫・東京大東急記念文庫・御茶の水図書館（その他予定として、高山寺・金沢文庫・石山寺）で聖教調査を行いました。また平成三年からスタートしました『定本弘法大師全集』の第二回配本として、平成四年六月に『三教指帰』などを収めた第七巻を上梓しました。引き続き第三回配本（第五巻『三昧耶戒序』・梵字悉曇字母並釈義）など）に向けて現在編集作業を進めています。

。「信仰と道」企画班は、高野七口を中心とする高野街道の实地調査において、平成四年の四月は美福門院ゆかりの安楽川道（第四回）、また十月は水ヶ峯から熊野本宮にいたる小辺路（第五回）を探訪しました。それらの調査報告は随時『高野山時報』の誌上に発行しています。

。その他、研究部門においては、同和研究会の開催、弘法大師著作研究部門の密教関係聖教類の調査協力、日本印度学仏教学会の論文データベース採取協力、紀要の発行を行い、コンピューター導入による事務処理の機械化（購入図書、聖教類、マイクロフィルムなどの整理）等を行っています。

。「密教文化研究所紀要」が益々充実し発展しますよう、今後共諸先生の一層の御協力と御支援をお願い申し上げます。

（平成四年十二月、R・I）

高野山大学密教文化研究所紀要 第六号

平成五年一月 十日 印刷
平成五年一月二十一日 発行

編集者 密教文化研究所

代表者 松 長 有 慶

発行所 密教文化研究所

和歌山県伊都郡高野山高野山大学
電話 (0735) 51253 ㊟ 64602

印刷所 第一印刷出版株式会社

大阪市福島区福島七―十三―一
電話 (06) 4515671 ㊟ 553